

新館長就任のお知らせ

国立新美術館は、現館長逢坂恵理子が 2026 年 3 月 31 日をもって退任し、2026 年 4 月 1 日付で新たな館長に菅谷富夫（すがや・とみお）が就任することとなりましたので、ここにお知らせ申し上げます。

逢坂恵理子は、2019 年 10 月の館長就任以来 6 年にわたり国立新美術館を率いるとともに、2021 年 7 月からは独立行政法人国立美術館理事長も兼務してまいりました。

新たに就任する菅谷富夫は、大阪中之島美術館準備室において「美術都市・大阪の発見」展（1997 年）、「早川良雄の時代」展（2002 年）などを中心に近代デザイン、写真、現代美術の分野で数々の展覧会を手掛け、2017 年からは準備室長として新しい美術館整備を統括し、2022 年からは開館した大阪中之島美術館の館長として意欲的な運営に努めてきました。

※次ページに逢坂恵理子退任にあたってのご挨拶がございます。



<略歴>

菅谷富夫（すがや・とみお）

1958 年千葉県生まれ。財団法人滋賀県陶芸の森学芸員、大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を経て 2017 年より大阪中之島美術館準備室長。2019 年初代館長に就任。近代デザイン、写真、現代美術の分野を担当する一方、新しい美術館整備を統括する。館外においても上記分野の批評・評論活動を多数行う。準備室時代に担当した主な展覧会は「美術都市・大阪の発見」展（1997 年）、「早川良雄の時代」展（2002 年）など。共著に『都市デザインの手法』（1998 年）、『デザイン史を学ぶクリティカルワーズ』（2006 年）など。

退任のご挨拶

このたび、私は 2026 年 3 月 31 日をもって、独立行政法人国立美術館理事長ならびに国立新美術館長を退任いたします。

この 6 年間、ご支援いただきました多くの皆様に心より御礼申し上げます。

国立新美術館は、美術のみならずデザイン、ファッション、建築、マンガ、アニメ、パフォーマンスなど多様な展覧会を開催し、来館者がアートと出会う充実した体験の場の提供に寄与してまいりました。コロナ禍が終息しつつある中、2,000 m²におよぶ展示空間を生かしたダイナミックな李禹煥の大回顧展や蔡國強、大巻伸嗣などの個展を開催するとともに、新たに、パブリックスペースを使って若い世代の作家を紹介する現代美術の小企画「NACT View」を始動いたしました。

教育プログラムにおいても、アーティストを塾長に迎え、10 代に焦点をあてた「NACT YOUTH PROJECT 新美塾！」を実施しました。また香港の M+（エムプラス）と協働した展覧会の開催をはじめとする国際ネットワークの強化や海外発信、自己収入の獲得にも創意工夫を重ね、ユニークベニューの活用、クラウドファンディングにも初挑戦いたしました。コロナ禍後、国内外からの来場者は増加していますが、国立美術館全体の運営は難しい過渡期を迎えています。

このたび、大阪中之島美術館で、PFI コンセッション方式による新しい美術館運営を実践してきた菅谷富夫（すがや・とみお）館長が、国立新美術館の 4 代目館長に就任いたします。

大阪中之島美術館の展覧会事業は当館と同じように幅広く、国立新美術館の活動とも親和性があります。国立の美術館としてのあるべき姿とその実現のための制度設計、人材育成など、国立新美術館の継続にむけて、菅谷館長の経験が生かされることでしょう。国内では唯一といえる手法により、美術館を成功に導いた菅谷館長の手腕に期待してバトンを渡します。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

2026 年 3 月

国立新美術館長

逢坂 恵理子

2026 年企画展ラインアップ

「テート美術館 — YBA & BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート」 2026 年 2 月 11 日（水・祝）—5 月 11 日（月）

「生誕 100 年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」 2026 年 4 月 15 日（水）—7 月 6 日（月）

「ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ」 2026 年 6 月 10 日（水）—9 月 21 日（月・祝）

「ルーヴル美術館展 ルネサンス」 2026 年 9 月 9 日（水）—12 月 13 日（日）

「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展」 2026 年 10 月 28 日（水）—2027 年 2 月 8 日（月）

国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007 年、独立行政法人国立美術館に属する 5 番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、あらゆる国や地域の人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース（14,000 m²）を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムや国際文化交流の実施に取り組んでいます。

来館のご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

<https://www.nact.jp>

一般の方のお問合せ： TEL 050-5541-8660（ハローダイヤル）

広報用画像

プレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://forms.office.com/r/Ja7xqZg2d7>

プレスリリースお問い合わせ：国立新美術館 広報室

Email: pr@nact.jp